

令和 5 年 2 月 24 日

大山町議会議長 米本 隆記 様

大山町議会議員 門脇 輝明

大山町議会議員研修報告書

1	日 時	令和 5 年 1 月 23 日 ( 月 ) ～ 24 日 ( 火 )	
2	研 修 地	大山町役場本庁舎 オンライン研修	
3	研 修 内 容	( 内 容 )	( 場 所 )
		(1) ベーシックサービス宣言 ～分かち合いが変える日本社会～	( 発 信 地 )
		(2) 一人ひとりの個性を尊重する「あおいけあ流」の介護の世界	全国市町村国際
		(3) ヤングケアラーの現状と必要な支援	文化研修所
		(4) ひきこもり本人や家族が必要とする支援と地域の役割	出席 117・OL109
4	研 修 結 果 又 は 概 要 ( 意 見 ・ 感 想 )	<p>(1) ベーシックサービス宣言 ～分かち合いが変える日本社会～ 講師：慶応義塾大学教授 井手 英策先生</p> <p>世界から見た日本の社会保障およびそれを支える経済の現状、ベーシックサービスの理論などについて話があった。</p> <p>世界から見た日本の社会保障は、一見は充実しているように見えるが、内容をよく見ると、充実しているのは高齢者向けのサービスであり、現役世代向けのサービスは自己責任という考え方が強く、非常にお粗末である。</p> <p>ベーシックサービスとは、井手先生が言い出された言葉であるが、その意味は「誰もが生存、生活のために必要とする／必要とするベーシックなサービス」であり、誰もが当然の権利として、負い目を負うことなく利用できるサービスである。</p> <p>たとえば、現在の生活保護制度は受給要件が厳しい上、受給していることが他の人たちに知られるとみっともない、恥ずかしいといった受給者の心理的負担も大きい。また、周囲からは受給者は怠けているとか自分だけ良い思いをしているなどの評価を受けることがある。これは受給者にとって屈辱である。</p> <p>全ての人に一定水準の生活を保障することによって、働きたくてもできない方への寛容さを引き出し、救済される弱者という屈辱から解放することができる。</p> <p>そうした、人間の尊厳を平等化する哲学に基づき施策を実施すべきである。そして、その財源は給付と負担のバランスを取ることによって可能であるなどと熱く語られた。</p> <p>子供に食事を与えるのは親の責任であり、経済的に厳しい家庭には補助も</p>	

		<p>あるので、給食費の無償化は親を甘やかすものであると考えていた私にとって、「人間の尊厳を平等」という考え方は、非常に参考になった。</p> <p>(2) 一人ひとりの個性を尊重する「あおいけあ流」の介護の世界 講師：株式会社あおいけあ 代表取締役 加藤 忠相先生</p> <p>介護を実際に行っている立場から、利用者の実態や望ましい介護の在り方と取り組んでいる成果を通して、衰えた機能を補助・代替する（いわゆるお世話をする）介護ではなく、可能な限り自立を促すケアが真実の介護であり、利用者の幸福につながることなどの話があった。</p> <p>(3) ヤングケアラーの現状と必要な支援 講師：日本女子大学名誉教授 堀越 栄子先生</p> <p>ヤングケアラーについて、①現状や抱える問題・課題②子どもの権利、健全やかな育ちを守る視点③ヤングケアラー支援の課題及び包括的な支援策④自治体における支援方針及び体系について豊富な資料を使って解説された。</p> <p>(4) ひきこもり本人や家族が必要とする支援と地域の役割 講師：全国ひきこもり家族会連合会広報担当理事 池上 正樹先生</p> <p>自身の実体験や問題となった刑事事件を例に挙げて、引きこもりへの望ましい対応について話された中で、引きこもりは何時でも誰でもなりうるものであることや、本人だけで解決できる問題ではないので、本人だけではなく家族への支援がより大切であること等の話があった。</p> <p>ひきこもりも忌避されるものではなく、多様な生き方の選択肢の一つであり、みんなと違って自分らしく生きることを尊重できる社会が、誰にとっても生きやすい社会であるとの考え方は示唆に富むものであった。</p>
調査結果 又は概要 (意見・感想)		<p>(5) まとめ</p> <p>今回の研修の何れからも、これからの住民福祉を考える上で新しい知見を得ることができ非常に有意義な研修であった。</p> <p>特に、今後、議会活動に取り組むうえで、「ベーシックサービス」という考え方と、自己責任を基礎とした「自助、共助、公助」という考え方とのバランスをどのようにとっていくのが良いのか、しっかり考えていく必要があると思った。</p>